

第40回ユネスコ世界遺産委員会について（概要）

平成 28 年 7 月
文化庁記念物課世界文化遺産室

1. 開催概要

期間：2016年7月10日～7月17日（当初予定では7月20日まで）

※クーデター未遂の影響により16日は終日中断

場所：トルコ共和国 イスタンブール

2. 主な審議結果

(1) 世界遺産一覧表への記載に係る審査

推薦書提出資産36件のうち9件の取り下げがあった（事前取り下げ7件、直前取り下げ2件）。そのため27件（うち1件は拡張申請）について審議され、「ル・コルビュジェの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献」を含む21件（文化遺産12件、自然遺産6件、複合遺産3件）を新たに記載することが決定された。

この結果、世界遺産は総計1052件（文化遺産814件、自然遺産203件、複合遺産35件）となった。【参考1、2参照】

※ 「ル・コルビュジェの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」については、7月17日午前（現地時間）に審議が行われた。レバノンからの発議により評価基準(i)を加える形で一覧表への記載が決定された。【参考3～5参照】

※ 「紀伊山地の霊場と参詣道」の（境界線の）軽微な変更については、クーデター未遂にかかる会議中断の影響を受けて審議が持ち越され、10月のユネスコ本部（パリ）における臨時会合において審議される予定となった。

※ 「ナン・マドール、東ミクロネシアの祭祀場」（ミクロネシア、文化）、「アンティグア海軍ドックヤードと関連考古遺跡群」（アンティグア・バーブーダ、文化）は当該国において初の世界遺産一覧表への記載となった。

(2) 資産の保全状況に係る審査

今回の委員会では、156件（うち55件は危機遺産）が保全状況審査の対象となった。

この中で議論された内容としては、全般的な管理体制・法的保護の不備の他、①武力衝突に関わるもの（例：イラク及びシリアの危機遺産）、②資産地区内あるいは近傍における開発行為に関わるもの（例：「シャフリサブス歴史地区」（ウズベキスタン）、「ウィーン歴史地区」（オーストリア））、③鉄道建設等のインフラ整備に関わるもの（例：「ラホール城塞とシャーリマール庭園」（パキスタン））、④自然災害に関わるもの（「カトマンズ渓谷」（ネパール））等が挙げられる。

※ 「富士山－信仰の対象と芸術の源泉－」については、7月13日午前（現地時間）に審議が行われ、地元自治体と連携し、専門家や地域コミュニティの参画を得て策定された「富士山ビジョン」を基調とした保全・管理計画は、広域の文化的景観における保存管理の問題を抱える地域に対して模範的な回答となる対策を示すものとして高い評価を得た。

また、ポーランドから優良事例として委員会において共有してほしいとの要請があり、2019年の世界遺産委員会で審査を行うものとして、2018年12月にさらなる保全状況報告書の提出が求められた。

（3）危機遺産一覧表の更新

世界遺産一覧表記載に係る審査及び保全状況に係る審査における審議の結果、8件の資産が新たに危機遺産一覧表に追加され、1件の資産が解除された。この結果、危機遺産は55件（文化遺産37件、自然遺産18件）となった。

※危機遺産一覧表に追加された資産（8件） <資産名称は仮訳>

- ・ナン・マドール、東ミクロネシアの祭祀場（ミクロネシア、文化。本資産は世界遺産一覧表への記載と同時に危機遺産一覧表に追加）
- ・ジェンネ旧市街（マリ、文化）
- ・シャフリサブス歴史地区（ウズベキスタン、文化）
- ・クーリナの古代遺跡（リビア、文化）
- ・レプティス・マグナの古代遺跡（リビア、文化）
- ・サブラータの古代遺跡（リビア、文化）
- ・タドラット・アカクスのロック・アート遺跡群（リビア、文化）
- ・ガダーミスの旧市街（リビア、文化）

※危機遺産一覧表から解除された資産（1件） <資産名称は仮訳>

- ・ムツヘタの文化財群（ジョージア、文化）

（4）ワーキング・グループの設置

『世界遺産条約履行のための作業指針』及び世界遺産基金の予算及び執行にかかるワーキング・グループが設置されたが、決議案の取りまとめに至るまでに委員会が閉会となったため、審議は10月のパリにおける臨時会合に持ち越された。

（5）イスタンブール宣言

議長のアニシアチヴにより、委員会初日に特段の議論をすることなく「Istanbul Declaration on the Protection of World Heritage（世界遺産の保護に係るイスタンブール宣言）」が採択された。

昨年「ボン宣言」が戦禍や自然災害の脅威によって遺産が破壊されている事態に対抗するための協力を求めたものであるのに対して、イスタンブール宣言は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」や、アフリカの世界遺産の持続的開発に係るンゴロンゴロ2016をふまえて、文化的多様性、違法発掘、遺物の不正取引、気候変動の脅威、経済的圧力等の幅広い多様な文化財保護における課題に対して、

国際的な協力体制を強化し持続的開発を図ることを目的とした宣言である。

(6) 臨時会合について

トルコ共和国において15日深夜（現地時間）に生じたクーデター未遂の影響により、当初の予定が変更され、それまでに未審議となっていた新規登録に係わる審議と19日に予定していた次回委員会の開催地に関する審議が17日にまとめて実施された。また、残りの議題については、本年10月にユネスコ本部（パリ、フランス）において臨時会合を設けて審議することとなった。（詳細な日程は未定）

(7) 第41回世界遺産委員会について

開催国等について、以下の通り決定した。

- ・日程：2017年7月
- ・場所：クラクフ（ポーランド共和国）
- ・議長（個人資格）：Pr. J. Purchia

第40回ユネスコ世界遺産委員会における新規記載及び拡張に係る審議結果

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考
1	中国	左江華山岩絵の文化的景観 Zuojiang Huashan Rock Art Cultural Landscape	文化	記載	記載	新規
2	インド	ナーランダ・マーハヴィハラ遺構 Excavated remains of Nalanda Mahavihara	文化	記載延期	記載	新規
3	イラン	ベルシャ式カナート The Persian Qanat	文化	記載延期	記載	新規
4	ミクロネシア	ナン・マドール、東ミクロネシアの祭祀場 Nan Madol: Ceremonial Center of the Eastern Micronesia	文化	記載	記載	新規
5	タイ	プー・ブラ・バット歴史公園 Phu Phrabat Historical Park	文化	記載延期	取り下げ	新規
6	ボスニアヘルツェゴビナ、クロアチア、モンテネグロ、セルビ	ステチュツィー中世の墓石群 Stecići - Medieval Tombstones	文化	記載延期	記載	新規
7	クロアチア	公共広場(フォーラム)の記念物を特徴とするザダル半島のローマ都市 Roman Urbanism of the Zadar Peninsula with the Monumental	文化	不記載	取り下げ	新規
8	ギリシャ	フィリッピの考古遺跡 Archaeological Site of Philippi	文化	記載	記載	新規
9	スペイン	アンテケラ・ドルメン遺跡 Antequera Dolmens Site	文化	記載	記載	新規
10	トルコ共和国	アニの考古遺跡 Archaeological Site of Ani	文化	記載延期	記載	新規
11	イギリス	ゴーハム洞窟群 Gorham's Cave Complex	文化	記載	記載	新規
12	アメリカ合衆国	フランク・ロイド・ライトの主要な近代建築作品群 Key Works of Modern Architecture by Frank Lloyd Wright	文化	記載延期	情報照会	新規
13	フランス、アルゼンチン、ベルギー、ドイツ、インド、日本、スイス	ル・コルビュジエの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献 - The Architectural Work of Le Corbusier, an Outstanding Contribution to the Modern Movement	文化	記載	記載	2009年 情報照会 2011年 記載延期
14	アンティグア・バーブーダ	アンティグア海軍造船所と関連考古遺跡群 Antigua Naval Dockyard and Related Archaeological Sites	文化	記載	記載	新規
15	ブラジル	パンプーリア近代建築群 Pampulha Modern Ensemble	文化	記載	記載	新規
16	パナマ	パナマシティの考古遺跡と歴史地区(重大な境界変更) Archaeological Site and Historic Centre of Panama City	文化	不承認	不承認	拡張申請
	チェコ/ドイツ	エルツゲビルゲ/クルシュノホリ鉱山の文化的景観 Mining Cultural Landscape Erzgebirge / Krušnohoří	文化	W	-	新規
	ドイツ	ハレのフランケ財団 Francke Foundations, Halle	文化	W	-	新規
	日本	長崎の教会群とキリスト教関連遺産 Churches and Christian Sites in Nagasaki	文化	W	-	新規
	モンテネグロ	ツェティニエ歴史地区 Historic Center of Cetinje	文化	W	-	新規
	大韓民国	書院、李氏朝鮮の宋明理学教育機関群 Seowon, Neo-Confucian Academies of the Joseon Dynasty	文化	W	-	新規

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考(過去の審議結果等)
17	チャド	エネディ山地: 自然景観及び文化的景観 Ennedi Massif: National and Cultural Landscape	複合	記載延期	記載	新規
18	イラク	南イラクの湿原: 生物多様性の避難場所かつメソポタミア都市の残存景観 The Ahwar of Southern Iraq: Refuge of Biodiversity and the Relict	複合	記載延期	記載	新規
19	インド	カンチエンズエンガ国立公園 Khangchendzonga National Park	複合	記載	記載	新規
20	カナダ	ピマチョウインアキ Pimachiowin Aki	複合	記載	情報照会	2013年 自然・文化 記載延期

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考(過去の審議結果等)
21	スーダン	サンガネブ海洋国立公園とドゥンゴナブ湾 ムッカワル島海洋国立公園 Sanganeb Marine National Park and Dungenab Bay - Mukkawar	自然	情報照会	記載	2015年 情報照会
22	中華人民共和国	湖北の神農架林区 Hubei Shennongjia	自然	記載	記載	新規
23	イラン	ルート砂漠 Lut Desert	自然	情報照会	記載	新規
24	カザフスタン、キルギスタン、ウズベキスタン	西天山山脈 Western Tien-Shan	自然	記載延期	記載	新規
25	トルクメニスタン	コイテンダグの山地生態系 Mountain Ecosystems of Koytendag	自然	不記載	記載延期	新規
26	タイ	ケーンクラチャン森林保護区群 Kaeng Krachan Forest Complex	自然	情報照会	情報照会	2015年 情報照会
27	カナダ	ミステイクン・ポイント Mistaken Point	自然	記載	記載	新規
28	フランス	ピュイ山地とリマーニュ断層の地殻運動・火山地帯 Tectono-volcanic Ensemble of the Chaîne des Puys and Limagne	自然	不記載	情報照会	2014 情報照会
29	メキシコ	レビジャヒヘド諸島 Archipiélago de Revillagigedo	自然	記載	記載	新規
	ロシア	西コーカサス Western Caucasus	自然	W	-	
	ロシア	コミの原生林 Virgin Komi Forests	自然	W	-	

※凡例

【I】記載 (Inscription), 【R】情報照会 (Referral), 【D】記載延期 (Deferral), 【N】不記載 (Not to inscribe), 【NA】不承認(拡張) (Not to Approve), 【W】取り下げ (Withdraw)

第40回世界遺産委員会における推薦案件に係る審議結果概要等

種別	第40回世界遺産委員会 における新規記載件数	世界遺産一覧表記載資産数 2016(平成28)年7月17日現在
自然遺産	6	203
複合遺産	3	35
文化遺産	12	814
合計	21	1052

	諮問機関勧告	世界遺産委員会決議
記載 (Inscription)	13	21
情報照会 (Referral)	3	4
記載延期 (Deferral)	9	1
不記載 (Not to inscribe)	3	0
不記載(拡張) (Not to Approval)	1	1
合計	29	27
取下げ [※] (Withdraw)	7	2

「ル・コルビュジエの建築作品」にかかる決議概要

(1) 記載の可否と評価基準

- ル・コルビュジエの建築作品を(i)(ii)(vi)の下に世界遺産一覧表に記載する。

	評価基準
i	ル・コルビュジエの建築作品は、人類の創造的才能を現す傑作であり、建築及び社会における 20 世紀の根源的な諸課題に対して顕著な回答を与えるものである。
ii	<p>ル・コルビュジエの建築作品は、近代建築運動の誕生と発展に関して、全世界規模で半世紀にわたって起こった、前例のない人類の価値の交流を示している。ル・コルビュジエの建築作品は、他に例を見ない先駆的なやり方で、過去と決別した新しい建築的言語を開発してみせることによって、建築に革命を引き起こした。</p> <p>ル・コルビュジエの建築作品は、ピューリスム、ブルータリズム、彫刻的建築という近代建築の 3 つの大きな潮流の誕生の印である。</p> <p>ル・コルビュジエの建築作品が 4 大陸で与えた地球規模の影響は、建築史上新しい現象であり、前例のない影響を示すものである。</p>
vi	<p>ル・コルビュジエの建築作品は、その理論と作品において 20 世紀における顕著な普遍的意義をもつ近代建築運動の思想と、直接的かつ物質的に関連している。一連の資産は、建築、絵画そして彫刻が統合した「エスプリ・ヌーボー」を表している。</p> <p>ル・コルビュジエの建築作品は、1928 年以降 CIAM（近代建築国際会議）により強力に広められた、ル・コルビュジエの思想を具現化している。</p> <p>ル・コルビュジエの建築作品は、新しい建築言語の発明、建築技術の近代化、近代人の社会的・人間的ニーズへの対応のために、近代建築運動が 20 世紀の主要課題に対応しようとした解決策の顕著な現れである。</p> <p>20 世紀の主要課題に対するル・コルビュジエの建築作品の貢献は、単に、ある時点での模範的な偉業にとどまらず、半世紀を通じて全世界に着実に広められていった建築及び文字による提案の顕著な総体である。</p>

(2) 追加的勧告

○ 要請があればイコモスの支援のもと、締約国が以下について検討するよう勧告する。

- a) 全ての構成資産における開発計画を対象として、遺産影響評価を導入すること
- b) 全ての構成資産についてモニタリング指標を改定すること
- c) 一連の資産について、関係者の合意による全体的な保全手法及び手順を整備すること
- d) 資産全体への潜在的影響という観点から、全ての関係国が全ての構成資産における主要な開発計画について十分に把握するために、「常設会議」がどのような役割を果たすことができるかについて検討すること
- e) チャンディガールのキャピトル・コンプレックスの管理計画を提出すること
- f) チャンディガールのキャピトル・コンプレックスの保全計画を進めること
- g) ギエット邸の緩衝地帯の保護について明らかにすること
- h) フランスの新「遺産法」がどのような効果をもたらすか(implication)について明らかにすること
- i) 今後の拡張に向けたあり方、最終的な範囲について、「常設会議」からの案を提出すること

○ 締約国に対して、上記の勧告に関する報告を、2018年に開催される第42回会合において世界遺産委員会で審議できるよう、2017年12月1日までに、世界遺産センターに提出するよう要請する。

「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」について

1. 概要

パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家ル・コルビュジエの作品のなかから選ばれた三大陸7か国（フランス・日本・ドイツ・スイス・ベルギー・アルゼンチン・インド）に所在する17資産で構成される。

本資産は建築史上初めて、建築の実践が全地球規模のものとなったことを示す物証であり、各構成資産は近代の社会的、人間的ニーズへ対応した建築の新しいコンセプトを反映し、広い地域に重大な影響を与え、いまだに少なからず21世紀建築文化の基盤であり続けている。

2. 構成資産

【フランス（10資産）】

ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸，サヴォア邸と庭師小屋，ペサックの集合住宅，カップ・マルタンの休暇小屋，ポルト・モリトーの集合住宅，マルセイユのユニテ・ダビタシオン，ロンシャンの礼拝堂，ラ・トゥーレットの修道院，サン・ディエの工場，フィルミニの文化の家

【日本（1資産）】国立西洋美術館

【ドイツ（1資産）】ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅

【スイス（2資産）】レマン湖畔の小さな家，イムーブル・クラルテ

【ベルギー（1資産）】ギエット邸

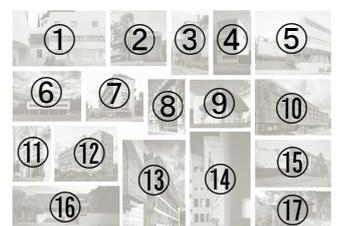
【アルゼンチン（1資産）】クルチェット邸

【インド（1資産）】チャンディガールのキャピトル・コンプレックス



© FLC/ADAGP/AONDH/De Prins/Emden/Kieslowsky/OMG, 2016

①ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸，②レマン湖畔の小さな家，③ペサックの集合住宅，④ギエット邸，⑤ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅，⑥サヴォア邸と庭師小屋，⑦イムーブル・クラルテ，⑧ポルト・モリトーの集合住宅，⑨ロンシャンの礼拝堂，⑩サン・ディエの工場，⑪クルチェット邸，⑫マルセイユのユニテ・ダビタシオン，⑬ラ・トゥーレットの修道院，⑭チャンディガールのキャピトル・コンプレックス，⑮フィルミニの文化の家，⑯国立西洋美術館，⑰カップ・マルタンの休暇小屋



3. 評価基準

(i) ル・コルビュジエの建築の傑作性：

ル・コルビュジエの作品は、人類の創造的才能を現す傑作であり、建築及び社会における20世紀の根源的な諸課題に対して顕著な回答を与えている。

(ii) ル・コルビュジエの建築が全世界に与えた大きな影響力：

ある期間にわたる価値観の重要な交流を示す。ル・コルビュジエは、新しい建築の概念を広め、20世紀における世界中の建築に大きな影響を与えた。

(vi) 建築によるアイデア（思想）の具現化：

ル・コルビュジエの作品は「近代建築運動」という顕著な普遍的価値を有する思想と直接関連している。

4. 登録に至るまでの変遷

当初推薦では、ル・コルビュジエという人物に主眼を置いていたが、イコモス勧告等を踏まえ、「近代建築運動への貢献」という点に説明の主眼を置き直した。これに伴い、構成資産についても、ル・コルビュジエの建築作品の中で近代建築運動への貢献が顕著に見られるものに絞りこんでいる。構成資産の変遷は下記の通り。

- ・当初の推薦（平成20年）：6か国22資産
- ・追加情報提出時（平成23年）：6か国19資産（当初推薦からフランスの2資産（クック邸、救世軍難民院）及びスイスの1資産（シュウオブ邸）を除外。）
- ・今次の推薦（平成27年）：7か国17資産（フランスに所在する1資産（スイス学生会館）及びスイスの2資産（ジャウル邸、ジャンヌレ邸）を除外。またインドの1資産（チャンディガールのキャピトル・コンプレックス）を追加。）

5. 関係年表

<当初推薦>

- 19年 9月 フランス政府から我が国に対し共同推薦の要請
- 同月 「国立西洋美術館（本館）」を我が国の暫定一覧表に記載
- 20年 2月 第1回推薦（6か国・22資産）
※推薦名称 ル・コルビュジエの建築と都市計画
- 10月 イコモスによる現地調査
- 21年 5月 イコモス勧告（記載延期）
- 6月 第33回世界遺産委員会（セビリア）（情報照会）

<追加情報の提出>

- 23年 1月 情報照会対応文書（実質的には改訂推薦書（6ヶ国・19資産））を提出
- 5月 イコモス勧告（不記載）
- 6月 第35回世界遺産委員会（パリ）（記載延期）

<今次推薦>

- 27年 1月 閣議了解を経て第2回推薦（7か国・17資産）
※推薦名称 ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献
- 8月 イコモス現地調査
- 11月 イコモスとの意見交換
- 12月 イコモス中間報告
- 28年 5月 イコモス勧告（記載）
- 7月17日 第40回世界遺産委員会（イスタンブール）において、世界遺産一覧表への記載が決定

国立西洋美術館について

1. 概要

国立西洋美術館本館は、日本に所在する唯一のル・コルビュジエ設計による建築である。

実業家・松方幸次郎の美術品コレクション（絵画，彫刻等）のうち，パリに保管され，第二次世界大戦後にフランス政府に押収されたものについては，1953年，その大半が日本国政府へ寄贈されることとなった。その際，西洋美術の変遷が学術的に日本の人々に伝わるような新美術館の建設が条件とされ，国立西洋美術館本館は，この条件を満たすために日本国政府が上野恩賜公園内に建設したものである。

設計者にはル・コルビュジエが選ばれ，建設に当たっては，ル・コルビュジエの下で学んだ前川國男，坂倉準三，吉阪隆正及び文部省管理局教育施設部工営課（当時）が設計補助並びに現場監理を行っている。着工は1958年3月，竣工は1959年3月である。

国立西洋美術館本館は，陸屋根，正方形の平面形状，らせん状の回廊，展示品の増加に伴い渦が大きくなるように増床できる平面計画等，ル・コルビュジエによる「無限発展美術館（Musée à croissance illimitée）」の構想をよく現した作品として評価されている。ピロティ（1階部分を柱のみ残して外部とする形式），屋上庭園，斜路，自然光を利用した照明計画，モデュロール（人体寸法と黄金比を基にした寸法体系）等，ル・コルビュジエに特徴的な設計要素を随所に見せる点でも貴重であり，20世紀を代表する世界的建築家のル・コルビュジエの代表的作品として，顕著な普遍的価値を有している。

2. 文化財指定等

平成19年12月 重要文化財（本館）

平成21年7月 登録記念物（園地）

3. 所在地

東京都台東区上野公園7-7

（正面）



（展示室）

